

## 【2】見守りネットワークの構築

### 要援護者支援用避難所マットの整備

( 大野市 )

#### 基礎情報

実施地域 大野市全域  
実施主体 大野市  
所在地 大野市天神町1-1  
代表者 大野市長 岡田高大



#### 活動を始めたきっかけ

平成23年3月11日の東日本大震災においては、厳しい寒さに加え長期間の避難所生活を余儀なくされる要援護者等が多数発生し、精神的及び身体的負担の軽減が課題となっていた。

そこで、大規模な災害により避難所での生活を余儀なくされる要援護者に対して、保温性や快適性に優れ、身体的苦痛の軽減を図ることができる物資の整備を計画した。

#### 見守り活動の担い手

大野市  
避難所運営職員  
区長（町内会）  
自主防災組織

#### 見守り対象者

避難所生活を送る要援護者等

#### 活動概要

高齢者や障害者などの要援護者の避難支援のための災害時避難所用マット（折りたたみサポートマット）を263枚購入した。

##### <購入目的>

- ・大規模な災害が発生した場合に、開設した避難所において保温性や快適性に優れた避難所マットを使用し、要援護者の身体的苦痛の軽減を図る。
- ・傷病者搬送用の資機材（簡易担架）としても機能し、医療機関等への搬送も容易になることから、緊急時の初動対応を迅速に行うことが可能となる。

### 見守りが必要な人の把握方法

市、町内会及び自主防災組織による災害時要援護者避難支援プランを作成し、災害発生時に避難の支援を必要とする方の名簿を作成している。

(緊急時連絡先については、区長や近隣の支援者に知らせている)

### 活動の成果・異変発見事例

避難所生活でのストレス軽減により二次災害防止に高い効果を見込むことができる。

また、災害発生時には、開設した避難所へ速やかに配備できるよう備蓄及び管理されている。

### 工夫した点

災害発生時には、福祉避難所として機能する市の所管施設に速やかに配備できるよう考慮して、物資の保管場所を確保することとしている。

### 事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり事業補助金を活用

### 課題

大規模災害が発生した場合は、情報の錯綜や応急対応の手順について混乱が発生する可能性が考えられるため、迅速かつ的確な支援活動の体制作りが不可欠である。

### 今後の目標

災害発生により、社会生活への影響が特に大きくなる要援護者（災害弱者）に対して、非常時でも支援が確保されているという安心感が育まれるよう、活動を続けていきたい。

